

みんなが創るみんなのページ、今度も素敵な作品が届きました。子どもからも年寄りまで、皆さんからの投稿をお待ちしています。

みんなのページ

- ・ケータイが 島でしゃべる日曜日 平井ちくさん(朽木大野)
- ・猿に鹿 動物保護もほどほどに 西川五雄三さん(高島)
- ・夏休み 宿題持って郷帰り 梅村金次郎さん(安曇川町藤江)
- ・もう少し がんばっとけば帰り返し 平井真造さん(安曇川町上古賀)
- ・里芋の葉 赤塚光恵さん(安曇川町下古賀)
- ・ゆめにまよう 子供のころの盆踊り 山中正子さん(マキノ町蛸口)

毎日募集中!

みんなのページ「川柳」
 テーマは特に設けません。ひとりで三作品まで。自由に発想した作品をお待ちしています。
 ・集まれー画伯「絵・イラスト」
 子どもたちのかわいい作品大募集!対象者は0歳から15歳まで。

KID'S NEWS

※毎月10日メッチ。(掲載希望作品が多かった場合またはメッチを過ぎた場合は、次の月広報に掲載)
 ※投稿方法 郵便またはe-mailにより、作品に名前、連絡先を必ず書き添えて市役所秘書広報課まで投稿してください。
 〒520-1592 高島市新旭町北畑55番地
 高島市役所 企画部 秘書広報課
 「みんなのページ」係まで
 ☎057-8-130
 e-mail koho@city.takashima.shiga.jp

地雷をなくそう! 2005 in 愛・地球博の報告

みなさんこんにちは。わたしたちは「地雷をなくそう!」世界子ども委員会(BLIC)です。私たちは、7月25日~30日の期間、愛知万博の地球市民村で地雷廃絶キャンペーンをしてきました。

地球市民村では、たくさんの方に地雷のことを知ってもらうため、朗読メッセージや歌、ロール絵本やパネル展を通じて地雷廃絶の必要性やわたしたちの思いを伝えてきました。

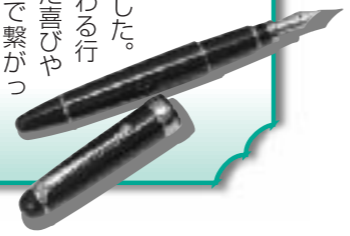
万博では、多くの方が発表を見に来てくださってとても充実したキャンペーンになりました。特に朗読メッセージは、涙を流しながら聞いてくださるお客さんがおられました。本番前日には、とても緊張していたわたし達ですが本番で見てくださいました感動させられました。

現在、わたし達は愛・地球博での地雷廃絶キャンペーンが終わったからといってわたしたちの活動が終わったわけではありせん。

わたし達は世界中から地雷がなくなる日まで、地雷廃絶を訴え続けていきます!!



市長日記



高島市の35,000反の田んぼで稲刈りが始まりました。田んぼ一反10aに赤とんぼ約2千匹が養われているとか。お互いを守り守られ繋がっています。

地震・雷・火事・〇〇〇。今なら4つ目に何を入れるかと考えてみるのも面白いですが、前3つの脅威を引き寄せて考えることが必要です。市の防犯協会設立総会で神戸市東灘区での震災体験を語った講師は、大事なものは食料の備蓄より、家屋の下敷きになった近所の人を如何に助けるかなのだと力説されました。ジャッキも大型のものより、脇に抱えて走れるような小型のものが大いに役に立つのだと。ところで大感流狂言に、「神鳴」という演目があります。

合併して初めての夏。様々なイベントにお邪魔するなかで高島の広さと共に個性と自治の力を感じました。

高島地域では、3,000個のペットボトルを市草の形に並べ、水に浮かぶキャンドルの灯りで会場を創っておられました。みんなの知恵と力を、持ち寄る。大切さを実感しました。お盆の14日の夜には、朽木の古屋地区に伝わる六斎念仏踊りを拝見しました。七人編成で、二人の見事な喉で念仏を歌いながら鉦を何通りかに叩き分け、二人の笛と合わせて絶妙の流れを生み出します。3人が太鼓を上にと下にと回しながら叩き、鷲のように足を交差させたりして約20分間踊り続けるのです。

以前は集落内の20戸を1軒ずつ朝までかかって回っていたそうです。禅宗のお寺で念仏踊りが催されることに、歴史の移り変わりを感じ、文化の独自性を保った地域の真面目さを7人の演者から感じました。高島市の宝物



8月17日、高島市地域医療整備検討委員会の本田委員長より高島総合病院整備計画に対する提言書が提出されました。

です。伝える人を求めておられました。即席ではできない、連綿と伝わる行事。人と自然の間に結ばれてきた喜びや畏れの表現が、過去から今日まで繋がっている。人の命という船に乗っている文化?に興味湧いてきます。「古いものほど新しい」と申しますが、新たな魅力は足元にあるのかもしれない。

ピラデスト今津から天増川の源流にいたる近江坂界隈のブナ林を高島市のエコツーリズム(自然体験型の観光事業)の看板にしようと夏山に入りました。分水嶺に沿って心地よいクッションの山道を色々教えて頂きながら心洗われるトレーニングです。守る人の暮らしを豊かにしてくれる自然だから尊い営みが持続する。この関係を再生したい。胸回り4メートルの巨木にも挨拶しました。何百歳だそです。

高島市で88歳以上の方は、950人いらっしゃいます。ご長寿おめでとうございます。年輪のお話が聞きたいです。仕合わせを織り成す役割は、みんなが担っていますね。

海東英和 拝

高島市 歴史散歩

No.9

北船木の若宮神社

安曇川河口付近の安曇川町北船木の集落南端に位置する若宮神社は、滋賀県でも有数の中世神社建築である本殿を持つことで知られています。この本殿は、現在も残る建立棟札によると、明応6年(1497)に佐々木能登守長綱が建立したもので、当初は若宮権現社と呼ばれていました。その後、天文4年(1535)、慶長6年(1601)、正保3年(1646)享保3年(1718)、寛保2年(1742)、寛政7年(1795)等に、屋根葺き替えを中心とする修理が行なわれていますが、現在にいたるまで、中世当時の古材と建築様式をよく伝えていとされています。

この若宮神社の創立沿革については、詳しいことは分かっていませんが、この地には、平安時代に賀茂別雷神社(上賀茂神社)の安曇川御厨があり、北船木の人人々が安曇川の川魚を献上していたりすることから、若宮神社は上賀茂神社の分霊をまつたことが始まりではないかと推測されています。

また、神社には寛治3年(1089)の奥書が残る大般若経が伝えられていて、これは16世紀初頭ころから北船木の御経として若宮神社で守られてきたことが分かっています。

江戸時代後半になると、境内建物の新築や祭神の勧請などが盛んに行なわれ、明治時代には村社、昭和初期には郷社となり多くの氏子の崇敬を集めました。

本殿は、昭和50年代に滋賀県などによって建築調査が進められ、昭和58年に県指定有形文化財に、次いで平成5年には国の重要文化財に指定されました。(文化財課)



北船木の若宮神社

ちょっと考えてみよう!

- 1 ペットを飼っている皆さん! 子犬、子猫が生まれても飼えないのであれば、不妊・去勢をしましょう。「不妊・去勢手術はかわいいぞう」「自然のままが一番」といった意見もありますが、望まれずに生まれる犬、猫たちは捨てられたり、安楽死されたりと悲しい結果しかありません。きちんと管理をすることが飼い主のマナーです。また、犬や猫を捨てることは、動物の愛護および管理に関する法律違反であり、違反した場合は50万円以下の罰金に処せられます。絶対に犬、猫は捨てないでください。
 - 2 地球温暖化のこと 地球温暖化の原因は「温室効果ガス」と呼ばれる二酸化炭素(CO2)などの急激な増加で、人類が化石燃料を大量に消費したり森林を開拓したりしたことにより増加し、それが地球全体に覆いをかけたような状態になり、熱が逃げにくくなった結果、地球の温度がどんどん上昇してきているのです。日常生活の中でも温暖化防止への取組みが必要です。
- ▼地球温暖化と考えられる影響の現状(1) 気候の変化
 ・気温の変化 20世紀の100年間で、日本の平均気温は約1℃上昇。特に都市部ではヒートアイランドの影響も追加され、東京では約2.9℃上昇。真夏日、熱帯夜の日数も都市部を中心に増加、真冬日の日数は減少。(環境省ホームページ「地球温暖化が日本に与える影響について」) 独立行政法人国立環境研究所より)
- ★取組み紹介
 国民的プロジェクト チーム・マイナス6%
<http://www.team-6.jp> 参照
 世界に約束した日本の目標、温室効果ガス排出量6%の削減を実現するための国民的プロジェクト。
 一問合せ先 高島市役所 市民環境部環境政策課 (環境政策課)